

## 高野山における多文化公共圏 ―櫻池院の場合―

バーバラ・S・モリソン

### はじめに

2004年、高野山で知られる日本の密教の僧院が世界遺産に登録され、海外からの観光客数が大幅に増加した。特に、高野山にある寺院、櫻池院の宿坊の90%は海外からの観光客である。毎年多くの観光客が櫻池院を訪れ、日本文化と関わり、真言宗（密教）の教義に出会うことができるが、日本国外の仏教学者や専門家は、中国から806年に密教の教義を持ち帰り真言宗を創始した空海（774年から835年：死後は弘法大師として知られる）の重要さはもちろんのこと、日本に密教が存在することさえわからずかしか知らないか、全く知らないように思われる。優れた学者であり、エンジニアや詩人、僧侶、政治家でもある空海は、高野山に彼の複合僧院を創立する（817-818）前に、中国で約三年間（804-806）学んだ。真言宗や空海についての知識の欠如は、特に、私が2016年7月にブータンで開かれた密教についての国際会議に出席し、密教の伝承に対する空海の貢献について口頭発表を行った際に明らかであった。31か国からの代表者の中で、私は日本からの唯一の出席者だった。私が会議で話した同僚や出席者の誰一人空海はもちろんのこと、真言宗について聞いたことさえなかった。

櫻池院への一連の研究旅行と宇都宮大学の多文化公共圏センターとの継続した研究を通して、我々は、少なくとも高野山にある一つの寺院では、国際交流の為の多文化空間を作り出す努力をしていること及びその仕方について理解し始めた。交流は、国内外の訪問者に真言宗の教えだけでなく、日本文化の理解について教

え、関与させる。この櫻池院で観光客や真言宗の信者に提供される多文化空間は、広範囲の参加者の間で文化や言語、そして信念体系について共有し、意見交換することを可能とする。そしてそれらは全て、何世紀も続く仏教寺院の日本の伝統的環境の中で成立する。

### 櫻池院における多文化公共圏の観点

櫻池院がどのようにして多文化公共圏として機能するかを理解するための見学工程の一環として、二つの観点から櫻池院を考究することが有用であると考ええる。まず第一に、世界的観点として、私は櫻池院の僧侶とブータンの僧侶の間での国際交流を可能にするために努力している。加えて、私は櫻池院出版物の英語版の出版に関わり、その出版物が異文化交流を可能にし、その結果としてこの寺院（特に仏教寺院）環境における多文化公共圏を可能にするために努力している。私は2018年3月にブータンで予定されている密教についての国際会議に櫻池院の二人の僧侶と共に出席予定である。

第二に、グローバル的観点から、櫻池院のスタッフや僧侶が、日本で多文化公共圏を作り、管理するために、どのように高野山で国内外の観光客と関わるかを記録している。これらの二つの観点を通して、また、櫻池院における具体的措置を調査することで、高野山には実は動的な多文化空間があり、「閉ざされた秘密」としての真言宗の観念はもはや維持されないことを明らかにしたい。

スタンフォード哲学百科事典によると、「空海は、そのほとんどの部分が、西洋だけでな

く日本においても、20世紀と現代の哲学者によって無視されている」。羽毛田義人は彼の著書『Kūkai: Major Works』（空海—主要な作品—）の中で「真言宗の僧侶たちの閉鎖された共同体は、彼らの教義を何世紀もの間宗教的秘密として守り続けて来た」と記している。真言宗が「一時はもしかすると東洋で最も国際的な仏教のあり方であったかもしれない」、空海は「近代以前の日本において文化的・宗教的指導者の中で最も国際的な存在の一人」であるにも関わらず、彼は依然として日本内外で、門外人や研究者、宗教専門家に、大抵の場合認識されず、過小評価されている。研究の過程において、私は世界的な人道主義の理想の中に弘法大師の日本の考えを明確に見いだした。グローバル人材となるために役に立つモデルを宇都宮大学の学生に提示できることがわかった。宇都宮大学の学生は現在必要に応じて単位を得ることが可能なインターンシップ・プログラムを通して櫻池院が提供する多文化公共圏を経験することができる。

### 櫻池院における多文化公共圏のダイナミクス

グローバル的観点から、櫻池院のスタッフや僧侶と共に進行している、又は成功した、世界的戦略を現地のニーズに関わらせる取り組みを記録し、報道し、理解するために活動している。櫻池院における現場観察を通して、どのようにこの寺院が 1) 外国からの観光客（宿坊）の流れを仕向け、維持するために有効なシステムを導入したのか、そして 2) どのように櫻池院が日本語と英語による出版物（翻訳）や説教（通訳）、そして活動（黙想や写経など）を通じて観光客が日本文化や真言宗の教えを経験することができるようにしてきたのか— が明確になる。

2016年8月から9月にかけて、私は研究（研修）を行いながら櫻池院に一か月（8月8日か

ら9月7日）滞在した。研修は 1) 禁欲的な活動（修行）を追求するためであり、 2) 一人の住職と一人の管理職の僧、そして約10人のスタッフ（3人の侍者を含む）がどのように異文化的に多様な見学者たちと、修行を続けながら調和するのかを観察し、研究する為であった。現在の櫻池院の住職は日本語のみを話す、スタッフや、滞在者（通常1、2泊）の日用品の管理をする僧は日本語と英語のバイリンガルである。10人（平均）のスタッフ（3人の侍者を含む）のうち、一人だけが不満や問題、誤解を解決するために必要なレベルの英語を話すことができる。

一か月の櫻池院での滞在を通じ、そこでの関係者の全面的な協力で、私は以下のことを試みた。

- 1) 管理僧や住職のようにスタッフや専門家が主に英語を話すゲストと調和するのを観察し、戦略を模倣することを理解する
- 2) 訪問者が櫻池院への滞在をそれぞれの国（そして、それぞれの言語で）でインターネット上で予約するためのシステムの導入について理解し、更にその予約を日本語話者であるスタッフがどのように処理するのかを理解する
- 3) 日本人と外国人の訪問者の両方にとって心地よい宿泊（予約、もてなし、布団、精進料理、朝勤行）、説教、写経、そして掃除）を可能にするシステムの作成について観察し、理解する
- 4) スタッフの日々のスケジュールを理解し参加すること、そしてどんな戦略が、スタッフや侍者が、究極的にストレスフルな状況に行きつくかもしれない程に多い仕事をこなし、協力することを可能にするのか理解する
- 5) 海外観光客と国内観光客のニーズの違いを理解し、それらの違いをどのように適応

させるか理解する

- 6) 真言宗の教えがどのように a) 日本の訪問者、b) 海外の訪問者、そして c) 日本と海外の両方の訪問者に伝えられるのかを理解する
- 7) 日本語で行われる朝勤行を録音し、英語翻訳を行う
- 8) 管理僧が朝勤行で英語と日本語で行う説教を録音し、二言語演説に関わるコミュニケーションストラテジーを理解する
- 9) 真言宗の伝統（律宗経、観音経、般若心経）の主要な引用句の伝え方を理解し、信者や信者以外（日本国内外両方の）がそれらの引用句を理解することを支援するにはどの言語が適切であるかを理解する

上記のタスクを通して、我々はどのように櫻池院が完璧に機能した寺院としてのニーズと、国内外の、真言宗に興味がある、又はない訪問者のニーズのバランスを完璧に取っているのかを正しく理解している。

#### おわりに

多文化公共圏センター（CMPS）での我々の仕事の中で、羽毛田による、真言宗は「閉ざされた秘密」であるという主張は再考されなければならないことが明らかになって来た。何故ならば、櫻池院には、活気に満ちた多文化空間

があるからである。これからの数か月、CMPSにおいて我々は、益子の居住者にどのように観光客の為の宿泊施設を運営するかを教えると共に、櫻池院と協力してマインドフルネスと瞑想を宇都宮大学の学生にレクチャーする為に活動している。昨年CMPSを通して実施した益子プロジェクトの結果、益子が発展させたいものの鍵となる領域の一つが、観光客の宿泊の拡大であることが明らかになった。我々はケーススタディとして櫻池院と共に益子でワークショップ・パワーポイントの手はずを整えている。

より長い期間の観点として、私は個人的に、空海が著名で周知の日本史の中の文化的人物として、どのように徹底的に異なる文化的パラダイム（中国語やサンスクリット語）を独自の世界市民のビジョンを作る為に用いたのかを支援、証明し、記録するための研究文献を集めることに関心がある。現在まで、空海に関する英語での研究は、主に教義上と宗教的事柄に限定されている。即ち、真言宗の教えである。空海はまた、日本史の初期に「国際的個性」として重大な貢献をした典型的な世界的人道主義者として認識されるべきである。弘法大師は今も我々に人道主義の理想を提供できる。宇都宮大学の学生に、真の日本のグローバルエンゲージモデルを提示する理想を。